

◆奨励賞◆

宇宙旅行

岡崎 小学校 六年

菊池 碧泉

私は将来、友達や家族と宇宙旅行に行きたいです。なぜかという宇宙にはまだたくさんのがあってそれを実際にみんなで見てみたいからです。

実はすでに二〇〇一年、四月ごろにアメリカの大富豪デニス・チトーという人がなんと二〇〇〇万ドル(日本円で約三〇億円)で国際宇宙ステーションに八日近く滞在したのち宇宙旅行へ行ったそうです。つまり、もうすでに民間人はお金をはらえば宇宙旅行へ行けるのです。ですが問題があります。

宇宙旅行へ行くには、アメリカの大富豪ほどの大金が必要になるのです。ですが私は、みんなと行きたいのです。そうなると兆単位のお金が必要とされます。なので、あまり体力をつかわず、一度つくれば何度でもつかえるという良いところだけのものをかんがえました。

それは「宇宙エレベーター」です。なぜなら、ガラスにすればまわりがきれいに見えるからです。ではこれから私が想像する宇宙エレベーターをしようかいたします。

宇宙エレベーターですから地球から宇宙のいろいろな星へつながっているというのは大前提です。ですが地球と宇宙の間にある「大気圏」というものが問題です。大気圏は、地上から約一〇〇キロメートルの高さのどこ

ろにあり八〇から九〇キロメートルのところではマイナス九〇度ほどの温度になり、一〇〇キロメートルの温度は一〇〇〇度になります。なので、この温度差にたえきれぬ人が入る箱が必要になります。まず高温にたえられるガラスは石英ガラスというものです。ですが、このガラスは熱に強いだけでマイナス九〇度にたえられる訳ではありません。低温にたえられるものもなくて、できません。それは、ポリカーボネートです。プラスチックですがとう明です。なんとマイナス四〇度からマイナス一二五度まで、たえられます。この二つを温度にあわせて、交対で出していけばいいと思います。

ですが今の人間が持っている技術では、私の考えたつくり方は出来ないとはいいます。いつか技術の進歩で、みんなと宇宙旅行へ簡単に行ける日が来るとうれしいです。